

表4-4						
CSPを行っているところでは他のプログラムも行っている割合が高いか						
	CSPを行っている場合		CSPを行っていない場合			
	N= 91		N= 116			
					割合の有意差検定	
内、SOSAを行っているところ	42	46.2%	9	7.8%	p<0.0001	
内、FGCを行っているところ	6	6.6%	2	1.7%	ns	
内、精研ペアトレを行っている	12	13.2%	15	12.9%	ns	
内、CRCを行っているところ	0	0.0%	7	6.0%	ns	
内、トリプルPを行っているところ	0	0.0%	3	2.6%	ns	
内、MyTreeを行っているところ	11	12.1%	0	0.0%	p<0.0001	
内、MCGを行っているところ	1	1.1%	3	2.6%	ns	
内、Nobodyを行っているところ	2	2.2%	0	0.0%	ns	
内、PCITを行っているところ	5	5.5%	6	5.2%	ns	
内、CAREを行っているところ	9	9.9%	2	1.7%	p<0.01	

表5									
	その他に行っているプログラム								
	コンカレント・プログラム								
	男親塾								
	ライフ・ストーリー・ワーク								
	セカンドステップ								
	ライフストーリーワーク								
	行われている各所の独自の事業								
	家庭復帰に向けた保護者向けプログラム								
	怒りのコントロールを学ぶプログラム								
	“いいな”グループ								
	保護者グループカウンセリング事業「ゆったり」								
	家族療法								
	虐待再発防止のための教育プログラム								
	教育プログラム								
	職権一時保護後の保護者指導虐待再発防止のための教育プログラム								
	「子どもが心配」チェックシート								
	ビデオフィードバック技法								
	“やっほー”グループ								
	カウンセリング強化事業								
	保護者等カウンセリング								
	なし。ペアレントトレーニング(所内作成の具体的な事例を使用)								
	～認知行動的アプローチによる～ペアレント・トレーニング								
	石川県中央児童相談所親支援プログラム								
	家族の絆づくりへの支援体制マニュアル								
	職権一時保護後の保護者指導虐待再発防止のための教育プログラム愛知県版 I								
	親グループカウンセリング事業(県事業)								
	ままの会								
	親子のきずな再生事業								
	カウンセリング強化事業								
	親子関係性評価								
	親子ヒーリングルーム事業								
	親子ヒーリングルーム事業								
	ペアレントトレーニング家族再統合								
	親子グループ、親子キャンプ								
	ドレミの会(ペアレントトレーニング)								
	インタラクションガイダンス								
	児童虐待保護者カウンセリング事業								
	児童虐待保護者カウンセリング事業(民間委託)								

表6-1		
取り組みが展開しにくい理由		
	(66(31.9%))	人員が足りない
	(58(28.0%))	時間が足りない
	(22(10.6%))	情報がない
	(35(16.9%))	研修制度がない
	(13(6.3%))	その他 ()

表6-2
プログラムが出来ない理由(自由記載)
<p>複数が研修受講することが困難。実施にも複数名要するものは、人員、時間、場所の確保が困難。人事異動等で実施できる職員が育たない。</p> <p>実施できるスタッフが少ない。職員全体にプログラムが浸透しているとはいえない。昨年度からCSPの研修を受講し、トレーナーのできるスタッフを養成している。在宅ケースの支援にCSPを実施したのが2ケースあるが、本格的な取り組みはこれから</p> <p>研修は実施されるが業務優先となり、参加できないことが多い</p>
<p>財政措置</p> <p>スペースが足りない</p>
<p>個別のプログラムを作成</p> <p>親の状況から、既成のプログラムに乗りにくリケースが多く、個々に対応せざるを得ない。</p> <p>再統合できるケースが少ない、親が指導に応じない(来ない)</p> <p>再統合が必要な事例が少ない 既存の手引き等で対応が可能</p>
<p>効果がはっきりしない</p>
<p>今年度から取り組み予定</p>

図5 取り組みが展開しにくい理由

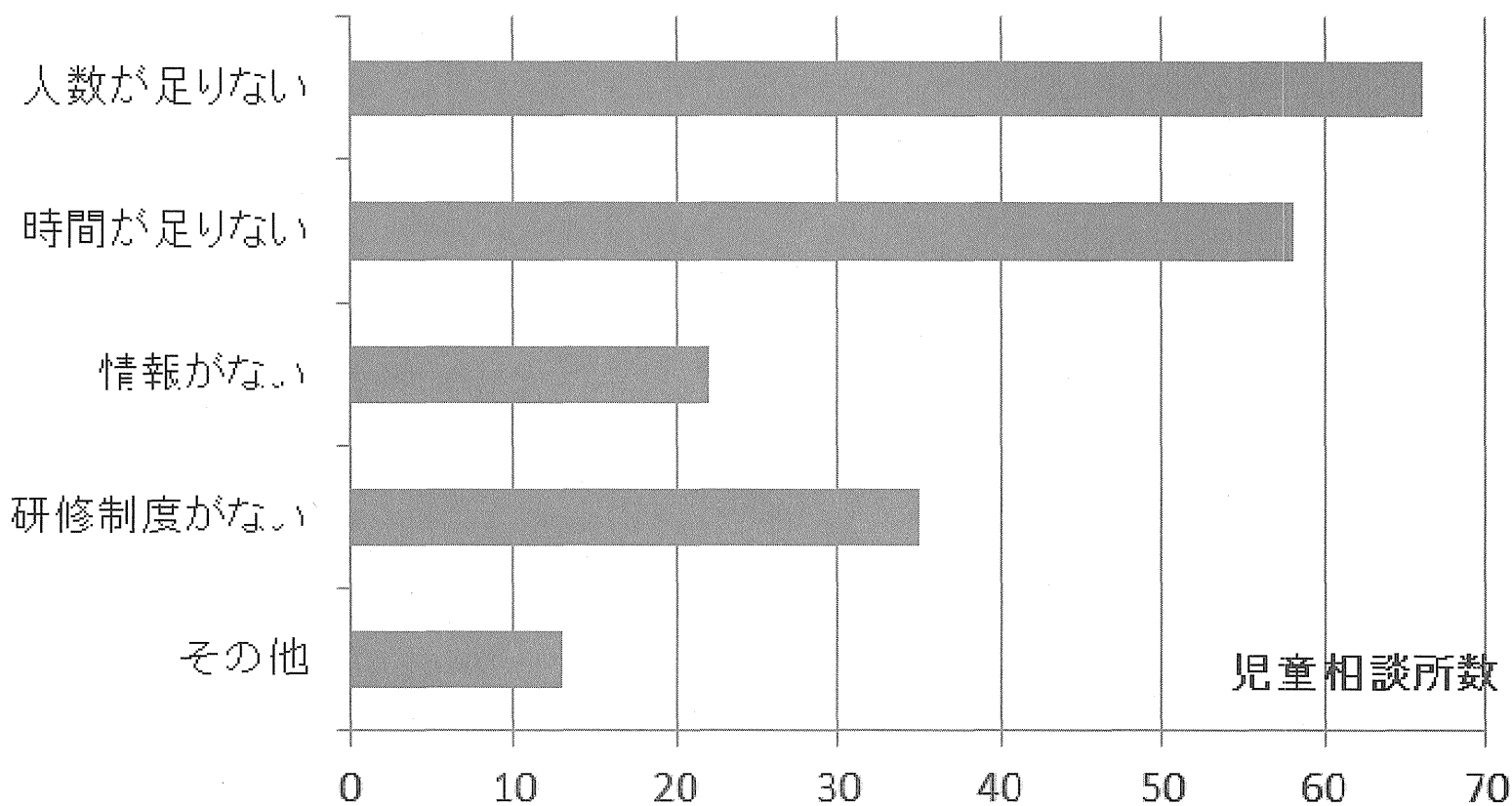
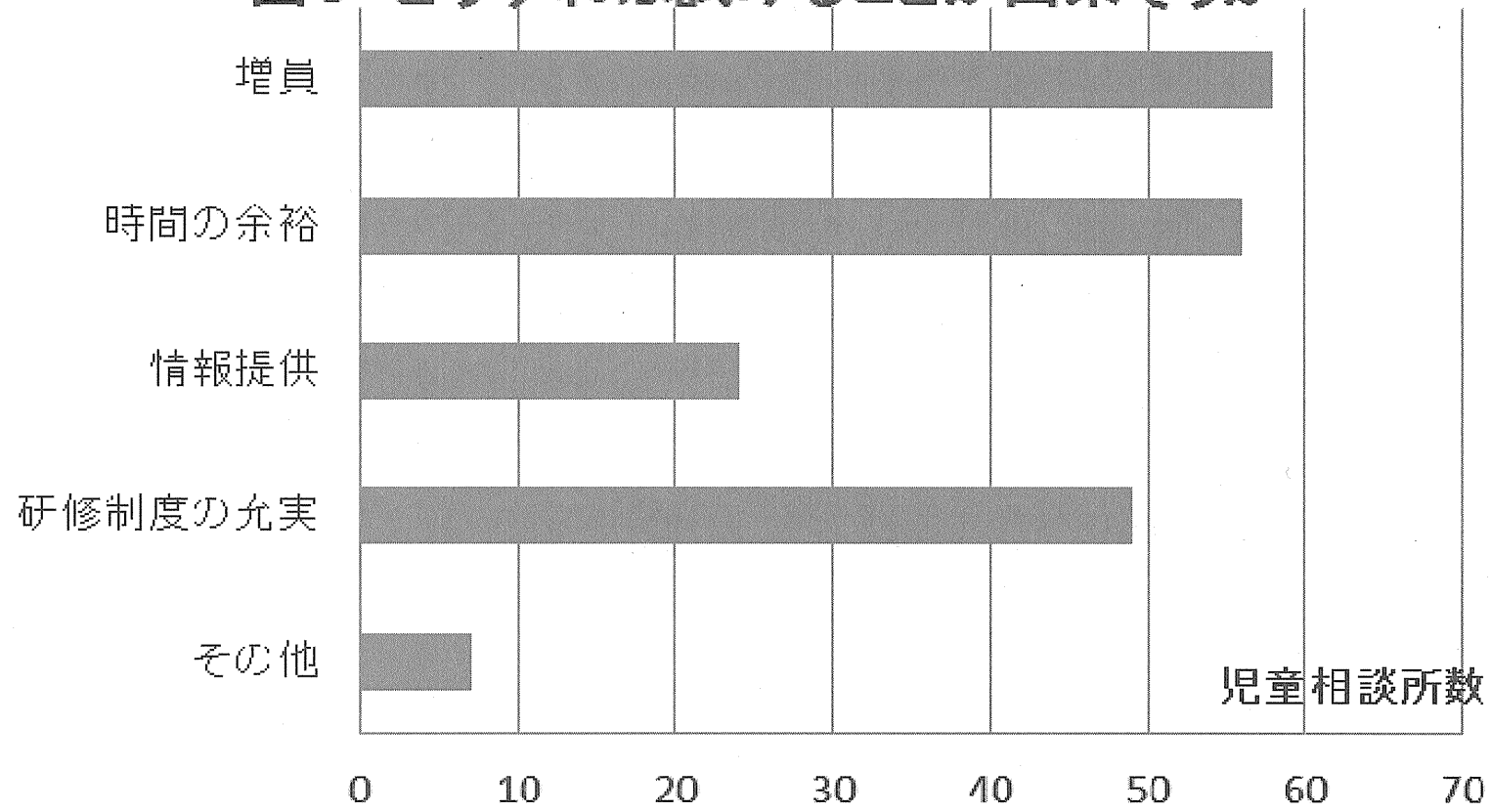


表6-3	
どうすれば試みることが出来るか	
(58(28.0%))増員	
(56(27.1%))時間の余裕	
(24(11.6%))情報提供	
(49(23.7%))研修制度の充実	
(7(3.9%))その他 ()	

表6-4
どうしたらプログラムが出来るか(自由記載)
職員の育成に重点をおくことが必要である。
財政措置
スペースの確保
再統合についてのケースアセスメントの力量を高める
施設でも再統合にむけた親支援プログラムを実施できればよい
今年度研修実施、個別に試行中
今年度から取り組み予定

図6 どうすれば試みることが出来るか



別紙-1 プログラムまたは事業の名称		サインズオブセーフティ アプローチ (N=46)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司(35)・児童心理士(35)・支援チーム(福祉職)(4)・支援チーム(心理職)(1)・支援チーム(福祉心理混成)(15)・医師(1)・その他(1)) 実施スタッフ人数(1(2) 2(6) 2.5(2) 4(2) 10(1))人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士(1)・医師・精神保健福祉士・社会福祉士・その他() 実施スタッフ人数()人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相・ 他の公的施設(施設名:)・ 民間団体(団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(7)・調査診断(14)・援助方針作成(23)・在宅支援(34)・一時保護中(37)・施設等入所中(31)・ 面会開始時(19)・外出外泊開始時(16)・引き取り時(28)・引き取り後在宅支援(20)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		私費(18) 公費(4) 私費と公費両方(6) 所内等の研修(16)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勤めるか		大体の親に使える(6) 養育に問題のある親(21) 改善を希望する親(6) ケースの評価のため(3) 引き取り希望(4)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		随時(30) 引き取り時(2)
年間実施人数		1~4(3) 5~9(2) 10~19(3) 20~(1)
実施してみて効果的だった事例の特徴		ほぼ「どのような親に勤めるか」と同様の記載 理解しにくい親に視覚化出来て有効(2)
導入までのケースワーク上の課題		共通認識(9) 多忙(2) アセスメントの重要性(1) 日が浅く評価できず(2)
プログラム実施上の課題や問題		職員間の理解(7) 良い評価をしがち(1) スキルの問題・スーパービジョン(10) 部分的な活用にとどまる(4) 日が浅く評価できず(2)
貴所に当該プログラムが導入された時期		2004(2) 2005(2) 2006(4) 2007(4) 2008(7) 2009(5) 2010(3) 2011(4) 2012(8)
貴所導入に 至ったいきさつ	キーパーソン	職員(16) チーム(3) 本庁(4) 研究事業(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続いているか		ほとんどが継続中 単発で行った(1) 家庭引き取りとなった(2)

別紙ー2 プログラムまたは事業の名称		FGC (N=7)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司(4)・児童心理士(3)・支援チーム(福祉職)(0)・支援チーム(心理職)(0)・支援チーム(福祉心理混成)(3)・医師(1)・その他(3) 実施スタッフ人数()人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士(1)・医師・精神保健福祉士・社会福祉士・その他() 実施スタッフ人数(2(1))人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相・ 他の公的施設(施設名:)・ 民間団体(団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(0)・調査診断(0)・援助方針作成(0)・在宅支援(3)・一時保護中(3)・施設等入所中(5)・ 面会開始時(4)・外出外泊開始時(4)・引き取り時(4)・引き取り後在宅支援(4)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		私費(0) 公費(1) 私費と公費両方(0) 所内等の研修(2)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勤めるか		養育に問題のある親(4) 引き取り希望(2)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		随時(30) 引き取り時(2)
年間実施人数		1～4(3) 10～19(2)
実施してみて効果的だった事例の特徴		親族の強みが生かせる場合(3) 実施した例はほぼ効果的(1) 参加により方向性が付いた(1)
導入までのケースワーク上の課題		日程調整(2) ファミリータイムまでは出来ない(2)
プログラム実施上の課題や問題		日程調整・中断(3)
貴所に当該プログラムが導入された時期		2005(2) 2006(2) 2011(1)
貴所導入に至ったいきさつ	キーパーソン	職員(1) チーム(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続いているか		記載例はすべて継続中

別紙-3 プログラムまたは事業の名称		GSP (N=83)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で 囲んでください)	児童福祉司(49)・児童心理士(58)・支援チーム(福祉職)(3)・支援チーム(心理職)(1)・ 支援チーム(福祉心理混成)(14)・医師(1)・その他(11) 実施スタッフ人数(1(5) 1.5(1) 2(13) 2.5(3) 3(3) 4(1) 5(6) 6(1) 7(1) 9(2) 13(1) 18(1))人
	児相内で外部スタッフが実 施	臨床心理士・医師・精神保健福祉士(1)・社会福祉士(1)・その他() 実施スタッフ人数(1(2) 1.5(1) 2(2) 4(1))人
	外注先を○で囲んでくださ い。公的施設の場合施設 名もお書きください。	他の児相(1)・ 他の公的施設 (施設名: 民間団体 (団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲ん でください)		相談受付(0)・調査診断(2)・援助方針作成(3)・在宅支援(62)・一時保護中(33)・施設 等入所中(59)・ 面会開始時(14)・外出外泊開始時(13)・引き取り時(26)・引き取り後在宅支援(44)
指導者養成等の費用負担の状況 (公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		私費(14) 公費(44) 私費と公費両方(13) 所内等の研修(10)
どのような問題をかかえる親、ど のようなことを希望している親に 特に勧めるか		養育に問題のある親(32) 困った感のある親(5) 改善を希望する親(41)
頻度(記入しやすい方法で記入し て下さい。年間何クール、年間何 エントリーetc)		1クール6セッションか7セッション セッション間隔は1/wから1/mまで様々な記載 随時(10) グループ(3)
年間実施人数		1～4(45) 5～9(16) 10～19(4) 20～(5)
実施してみて効果的だった事例の 特徴		ほぼ「どのような親に勧めるか」と同様の記載 子どもが年少(2) 子どもが発達障害(1) 評価がまだ出来ない(4) 定期来所で親が 安定(1)
導入までのケースワーク上の課題		親の動機付け・関係づくり(多数) 親子分離例に実行難しい(1)
プログラム実施上の課題や問題		人手・エネルギー・設備(13) 中断・キャンセル・日程(12) 内容高度(2) 実施途中 で虐待発生(2) グループでの実施が難しい(8)
貴所に当該プログラムが導入さ れた時期		2001(2) 2004(7) 2005(6) 2006(4) 2007(4) 2008(13) 2009(3) 2010(11) 2011(16) 2012(10)
貴所 導入 に至っ たいき さつ	キーパーソン	職員(33) チーム(2) 本庁(6) 他所の職員(1) 研究事業(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続い ているか		ほとんどが継続中 単発で行った(1) 現在事例なし(1)

別紙-4 プログラムまたは事業の名称		精研式ペアトレ (N=25)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司(10)・児童心理士(23)・支援チーム(福祉職)(0)・支援チーム(心理職)(1)・支援チーム(福祉心理混成)(14)・医師(1)・その他(3)) 実施スタッフ人数(1(2) 1.5(1) 2(2) 2.5(1) 3(3) 5(1) 6(2))人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士(3)・医師(1)・精神保健福祉士(2)・社会福祉士(1)・その他()) 実施スタッフ人数(1(2))人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相(1)・ 他の公的施設(1) (施設名:)・ 民間団体(2) (団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(1)・調査診断(0)・援助方針作成(1)・在宅支援(22)・一時保護中(1)・施設等入所中(10)・ 面会開始時(2)・外出外泊開始時(1)・引き取り時(2)・引き取り後在宅支援(11)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		私費(1) 公費(9) 私費と公費両方(0) 所内等の研修(10)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勧めるか		養育に問題のある親(2) 困った感のある親(4) 改善を希望する親(7)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		1クール6セッションから10セッション 月1回から2回 グループ出来ず個別支援(10)
年間実施人数		1~4(5) 5~9(13) 10~19(2) 20~(2)
実施してみて効果的だった事例の特徴		ほぼ「どのような親に勧めるか」と同様の記載 グループの力の効果(2) 障害の理解が進んだ(1) CSPがうまくいかなかった例(1)
導入までのケースワーク上の課題		親の動機付け・関係づくり(多数) ケースワークの流れとのタイミング(1) 見立てが大切(1) 親子分離例で出来ず(1)
プログラム実施上の課題や問題		人員(3) 中断・キャンセル・日程(6) ずれた対象者を紹介される(1) 親子分離例で難しい(1)
貴所に当該プログラムが導入された時期		2002(1) 2003(4) 2004(1) 2005(3) 2006(1) 2007(2) 2009(3) 2010(3) 2011(1) 2012(2)
貴所導入に至ったいきさつ	キーパーソン	職員(8) 本庁(2) 他所から異動してきた職員(2) 外部で熱心に活動している人(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続いているか		ほとんどが継続中 ケースが無ければ実施しない(2)

別紙ー5 プログラムまたは事業の名称		CRC (N=2)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司・児童心理士・支援チーム(福祉職)・支援チーム(心理職)・支援チーム(福祉心理混成)・医師・その他() 実施スタッフ人数()人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士(1)・医師・精神保健福祉士(1)・社会福祉士(1)・その他() 実施スタッフ人数(3(2))人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相(1)・他の公的施設(施設名:)・民間団体(2)(団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(0)・調査診断(0)・援助方針作成(0)・在宅支援(1)・一時保護中(0)・施設等入所中(1)・面会開始時(0)・外出外泊開始時(0)・引き取り時(1)・引き取り後在宅支援(0)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		民間への委託(2)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勤めるか		改善を希望する親(2)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		1クール8セッションから12セッション 間隔は2週間
年間実施人数		1~4(1) 5~9(0) 10~19(1) 20~(0)
実施してみて効果的だった事例の特徴		親子分離が長期化していない(1) 育児スキルが分かるとよくなりそうな親(1)
導入までのケースワーク上の課題		親の動機付け・関係づくり(2)
プログラム実施上の課題や問題		参加しにくい(2)
貴所に当該プログラムが導入された時期		2007(1) 2011(1)
貴所導入に 至った いきさつ	キーパーソン	職員(1) 民間団体(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続いているか		継続(1) 予定なし(1)

別紙—6 プログラムまたは事業の名称		トリプルP (N=3)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司(1)・児童心理士(2)・支援チーム(福祉職)・支援チーム(心理職)・支援チーム(福祉心理混成)・医師・その他() 実施スタッフ人数()人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士・医師・精神保健福祉士・社会福祉士・その他(1) 実施スタッフ人数(1(1))人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相・他の公的施設(1) (施設名:)・民間団体(団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(0)・調査診断(0)・援助方針作成(0)・在宅支援(2)・一時保護中(0)・施設等入所中(1)・面会開始時(0)・外出外泊開始時(0)・引き取り時(0)・引き取り後在宅支援(0)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		公費(2)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勤めるか		改善を希望する親(2)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		年間2～5クール
年間実施人数		10～19(1) 20～(1)
実施してみて効果的だった事例の特徴		前向きになれた、いつのまにか穏やかになった
導入までのケースワーク上の課題		プログラムの周知 児相の事例とプログラムの内容とが合わない
プログラム実施上の課題や問題		人手(1) 中断(1)
貴所に当該プログラムが導入された時期		2011(1) 2012(1)
貴所導入に至りたいきさつ	キーパーソン	外部の熱心なファシリテータ(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続いているか		継続中

別紙ー7 プログラムまたは事業の名称		MyTree (N=6)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司(1)・児童心理士(1)・支援チーム(福祉職)(0)・支援チーム(心理職)(1)・支援チーム(福祉心理混成)(0)・医師(0)・その他() 実施スタッフ人数()人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士・医師・精神保健福祉士(0)・社会福祉士(0)・その他() 実施スタッフ人数()人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相(1)・他の公的施設(2) (施設名:)・民間団体(5) (団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(0)・調査診断(0)・援助方針作成(1)・在宅支援(4)・一時保護中(2)・施設等入所中(4)・面会開始時(1)・外出外泊開始時(1)・引き取り時(1)・引き取り後在宅支援(1)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		外部委託(5)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勧めるか		養育に問題のある親(4) 改善を希望する親(2)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		1クール15セッションから18セッション セッション間隔は毎週もしくは隔週
年間実施人数		1~4(1) 5~9(4) 10~19(1)
実施してみて効果的だった事例の特徴		傷つきのある親(2) 内省出来る親(2) グループの力動(1) 評価がまだ出来ない(1)
導入までのケースワーク上の課題		日程(2)グループに入れるかの見極め(2) 日が浅く評価できず(1)
プログラム実施上の課題や問題		会場の確保(1) 日程(1) 実施途中で虐待発生(2) グループに入りにくい人(1)
貴所に当該プログラムが導入された時期		2005(1) 2006(1) 2007(2) 2011(2) 2012(1)
貴所導入に至ったいきさつ	キーパーソン	職員(2) 本庁(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続いているか		継続中

別紙ー8 プログラムまたは事業の名称		MCG (N=4)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司(0)・児童心理士(0)・支援チーム(福祉職)(2)・支援チーム(心理職)(0)・支援チーム(福祉心理混成)(0)・医師(0)・その他(11) 実施スタッフ人数(3(2))人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士・医師・精神保健福祉士・社会福祉士・その他(1)() 実施スタッフ人数()人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相・ 他の公的施設 (施設名:)・ 民間団体(2) (団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(0)・調査診断(0)・援助方針作成(0)・在宅支援(0)・一時保護中(3)・施設等入所中(3)・ 面会開始時(1)・外出外泊開始時(1)・引き取り時(2)・引き取り後在宅支援(3)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		委託(1)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勧めるか		養育に問題のある親(3) ひきとり希望(1)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		月1回か2回
年間実施人数		1~4(0) 5~9(1) 10~19(1) 20~(2)
実施してみて効果的だった事例の特徴		保護者がいろいろな事を語った(3)
導入までのケースワーク上の課題		親の動機付け・関係づくり(1) 参加者の確保(1) ケースごとに導入法が違う(1)
プログラム実施上の課題や問題		中断・キャンセル・日程(3) グループでの実施が難しい(1)
貴所に当該プログラムが導入された時期		別表2005(2) 2007(1) 2008(1)
貴所導入に 至ったいきさつ	キーパーソン	職員(1) 本庁(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続けているか		継続中/増加中

別紙-11 プログラムまたは事業の名称		PCIT (N=11)
誰が行うか	児相職員(いくつでも○で囲んでください)	児童福祉司(1)・児童心理士(10)・支援チーム(福祉職)(0)・支援チーム(心理職)(2)・支援チーム(福祉心理混成)(0)・医師(2)・その他(1) 実施スタッフ人数(1(1) 2(1) 3(1) 4(1))人
	児相内で外部スタッフが実施	臨床心理士(2)・医師(2)・精神保健福祉士(0)・社会福祉士(0)・その他(1) 実施スタッフ人数(1(2))人
	外注先を○で囲んでください。公的施設の場合施設名もお書きください。	他の児相(1)・ 他の公的施設(1) (施設名:)・ 民間団体(1) (団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲んでください)		相談受付(0)・調査診断(0)・援助方針作成(0)・在宅支援(8)・一時保護中(2)・施設等入所中(6)・ 面会開始時(0)・外出外泊開始時(1)・引き取り時(4)・引き取り後在宅支援(8)
指導者養成等の費用負担の状況(公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		私費(7) 公費(1) 所内等の研修(2)
どのような問題をかかえる親、どのようなことを希望している親に特に勤めるか		養育に問題のある親(4) 困った感のある親(1) 改善を希望する親(3)
頻度(記入しやすい方法で記入して下さい。年間何クール、年間何エントリーetc)		月1回から2回の間隔
年間実施人数		1~4(8) 5~9(2)
実施してみて効果的だった事例の特徴		ほぼ「どのような親に勤めるか」と同様の記載 子どもが年少(2) 知的に低め(1) 評価がまだ出来ない(1)
導入までのケースワーク上の課題		職員間の協議(4)
プログラム実施上の課題や問題		人手・エネルギー・設備(8) 中断・キャンセル・日程(3)
貴所に当該プログラムが導入された時期		2009(1) 2010(1) 2011(4) 2012(4)
貴所導入に 至ったいきさつ	キーパーソン	職員(7) 他所の職員(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続いているか		ほとんどが継続中 事例しだい(1) 導入したばかり(1)

別紙-12 プログラムまたは事業の名称		CARE (N=11)
	児相職員(いくつでも○で 囲んでください)	児童福祉司(3)・児童心理士(11)・支援チーム(福祉職)(0)・支援チーム(心理職)(0)・ 支援チーム(福祉心理混成)(1)・医師(1)・その他(2) 実施スタッフ人数(2(1) 3(1) 4(1) 8(1))人
誰が 行うか	児相内で外部スタッフが実 施	臨床心理士・医師・精神保健福祉士・社会福祉士・その他() 実施スタッフ人数()人
	外注先を○で囲んでくださ い。公的施設の場合施設 名もお書きください。	他の児相・ 他の公的施設 (施設名: 民間団体 (団体名:)
どんなときに(いくつでも○で囲ん でください)		相談受付(0)・調査診断(0)・援助方針作成(0)・在宅支援(9)・一時保護中(3)・施設等 入所中(3)・ 面会開始時(2)・外出外泊開始時(2)・引き取り時(4)・引き取り後在宅支援(5)
指導者養成等の費用負担の状況 (公費・私費)・金額 どうやって資格を取ったか		私費(3) 公費(1) 私費と公費両方(5) 所内等の研修(1)
どのような問題をかかえる親、ど のようなことを希望している親に 特に勧めるか		養育に問題のある親(3) 困った感のある親(2) 改善を希望する親(2) 通所回数 が限られた親(1) スキル向上が役立つと思われる(1)
頻度(記入しやすい方法で記入し て下さい。年間何クール、年間何 エントリーetc)		1クール7セッション セッション間隔月一回 個別に随時(4)
年間実施人数		1~4(3) 5~9(4)
実施してみて効果的だった事例の 特徴		ほぼ「どのような親に勧めるか」と同様の記載 子どもが年少(1) 外泊前(1) 評価がまだ出来ない(1)
導入までのケースワーク上の課題		職員の理解協力(3) 評価がまだできない(1)
プログラム実施上の課題や問題		人手・エネルギー・設備(2) 中断・キャンセル・日程(3) 評価がまだできない(1)
貴所に当該プログラムが導入さ れた時期		2009(1) 2010(2) 2011(1) 2012(4)
貴所 導入 に至っ たいき さつ	キーパーソン	職員(4) 本庁(1) 嘱託職員(1)
	設置組織	
	人員	
導入後の実績状況、現在も続い ているか		ほぼ継続中 保護者への紹介は続いている(1) 余裕がないので中断(1)

別紙 表1			
各プログラムを行う人 自由記載欄の内容			
SoSA	児相職員その他	保健師 保健師 相談員 親子支援チーム(児童福祉司・児童心理司)・児童相談員	
	外部スタッフその他	大学教員のスーパーバイズ	
FGC	児相職員その他	保健師 相談員 親子支援チーム(児童福祉司・児童心理司)・児童相談員	
	民間団体	子育て運動えん	
CSP	児相職員その他	保健師 保健師 保健師 福祉職 判定保護指導員 親子支援チーム・児童相談員 指導員、保育士 子育て相談員 子育て相談員 サポート員 アドバイザー	
		外部スタッフその他	児童心理士
		他の児相	中勢児童相談所
		精研ペアトレ	親子支援チーム・児童相談員 アルバイト、非常勤心理 アルバイト
		他の児相 他の公共機関 民間団体	都の児相センター 市子供家庭支援センター 虐待防止センター まめの木クリニック
CRC	民間団体	チャイルドリソースセンター	
トリプルP	外部スタッフその他	認定ファシリテーター	
	他の公共機関	保健福祉事務所←保健師が主体	
MyTree	他の公共機関	WithYouさいたま 場所はWithYouさいたま	
	外部スタッフその他	医療職(助産師)	
	民間団体	子育て運動えん ファシリテーター資格保持者個人に外注 NPO法人だいじょうぶ MyTree事務局 共生会希望の家	

MCG	児相職員その他	民間団体				
		保健師、子育て相談員				
	外部スタッフその他	相談員				
	民間団体	社福)子どもの虐待防止センター				
		子どもの虐待防止センター、相談員				
PCIT	児相職員その他	中央児相の職員にSVを受けながら実施				
	外部スタッフその他	保健師				
	他の公共機関	こころの健康センター				
	民間団体	武蔵野大学				

別紙 表2													
プログラムの開始年(その年に開始した児童相談所の数)													
	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	合計
SoSA	0	0	0	2	2	4	4	7	5	3	4	8	39
FGC	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	1	0	5
CSP	2	0	0	7	6	4	4	13	3	11	16	10	76
精研ペアトレ	0	1	4	1	3	1	2	0	3	3	1	2	21
CRC	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
トリプルP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
MyTree	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	2	1	6
MCG	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	4
Nobody	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
PCIT	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	4	10
CARE	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4	8

別紙 図1 プログラム開始年

